

図 7-4(E) ひどいいたずら：大島の分類

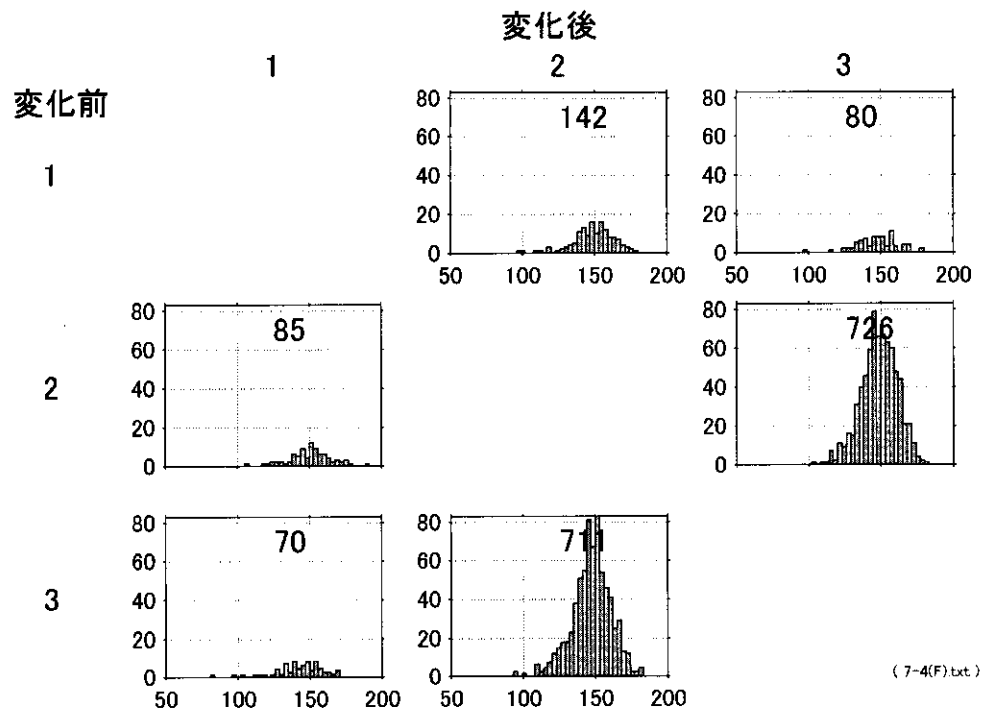


図 7-4(F) ひどいいたずら：身長 (cm)

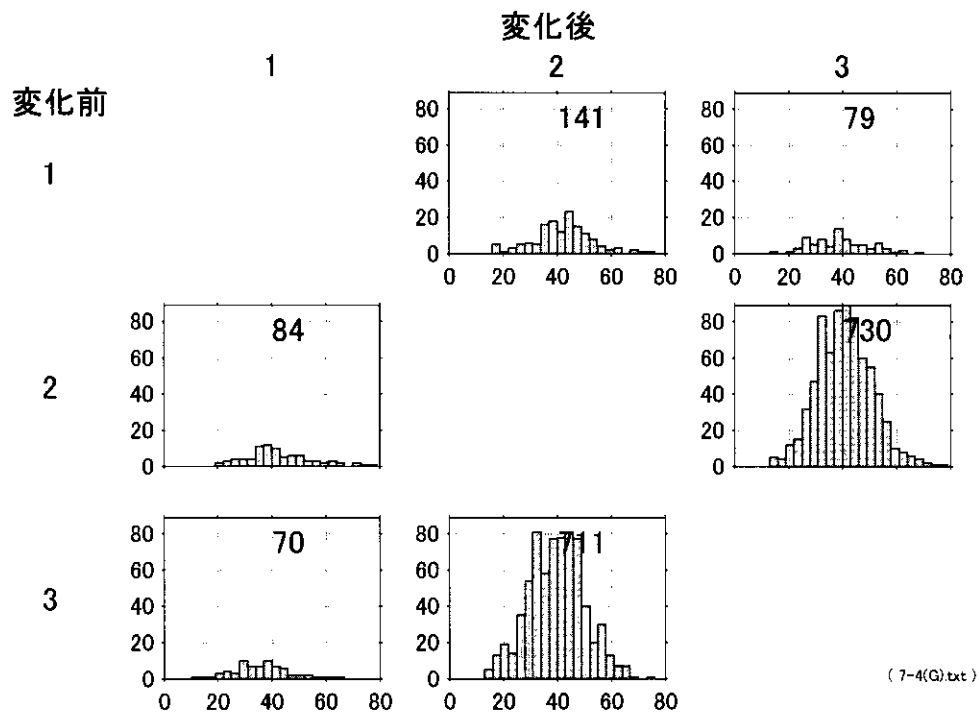


図7-4(G) ひどいいたずら：体重 (kg)

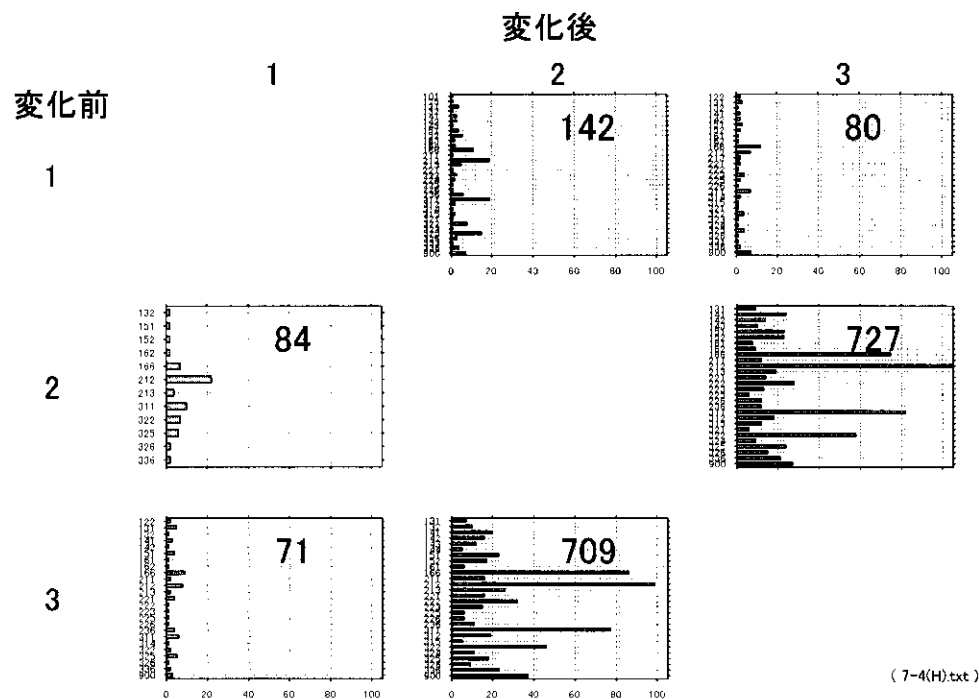


図7-4(H) ひどいいたずら：主要病因

## 7. 5. 衝動的・発作的行動

### ■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 7-5 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8586 名の中で不変群 6706 名を除いた，1880 名 (21.9%) に変化がみられた。改善は 1230 回，退行は 1365 回発生し，改善は退行に比べて少なかった (改善/退行：-9.9%)。また，改善と退行の和 (2595 回) を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.38 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群 (992 回，改善回数の 80.7%) であった。一方，退行に関しては，3 群→2 群 (1188 回，退行回数の 87.0%) の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1465 回みられ，改善が 701 回 (47.8%)，増悪 764 回 (52.2%) であった。女性では何らかの変化が 1130 回みられ，改善が 529 回 (46.8%)，増悪 601 回 (53.2%) であった。男女間で顕著な差は認めていない。

改善群，増悪群について大島の分類との関連をみると，大島の分類 1・2・5・10・17 にその数がともに高い。身長・体重との関係については改善群，増悪群の両者に大きな差を認めていない。なお，分布のピークは改善群，増悪群はともに 40 kg 前後に位置付けられていた。

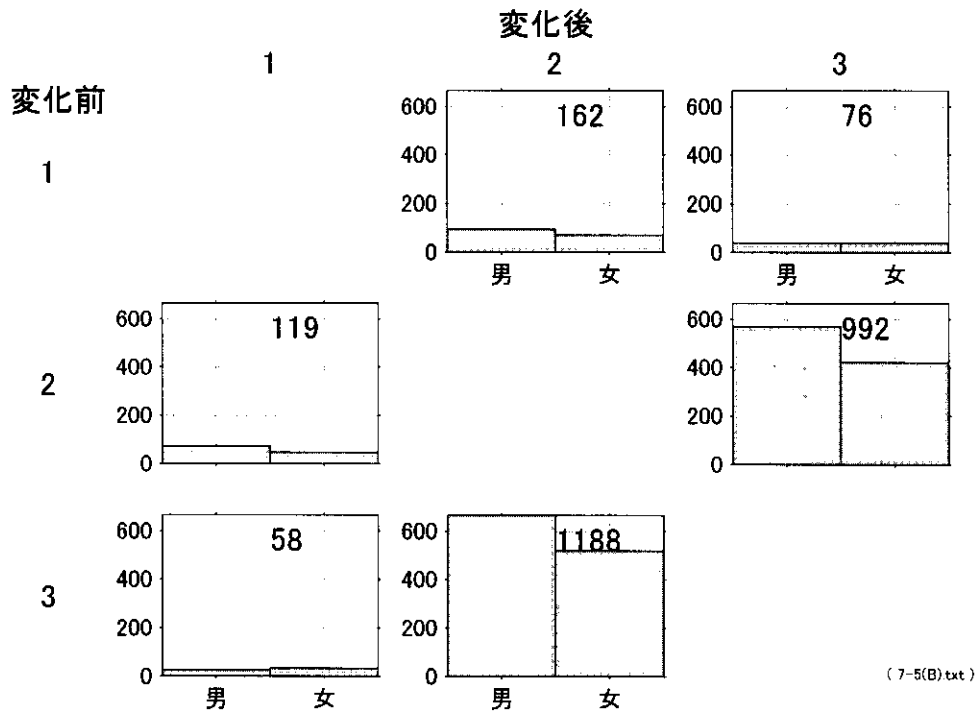
	变化後 1	2	3
变化前 1	53 名	162 回	76 回
2	119 回	564 名	992 回
3	58 回	1188 回	6089 名

対象症例数 = 8586 名  
 不変症例数 = 6706 名  
 变化症例数 = 1880 名

改善变化回数 = 1230 回  
 増悪变化回数 = 1365 回

(7-5(A).txt)

図 7-5(A) 衝動的・発作的行動：全体



(7-5(B).txt)

図 7-5(B) 衝動的・発作的行動：性別

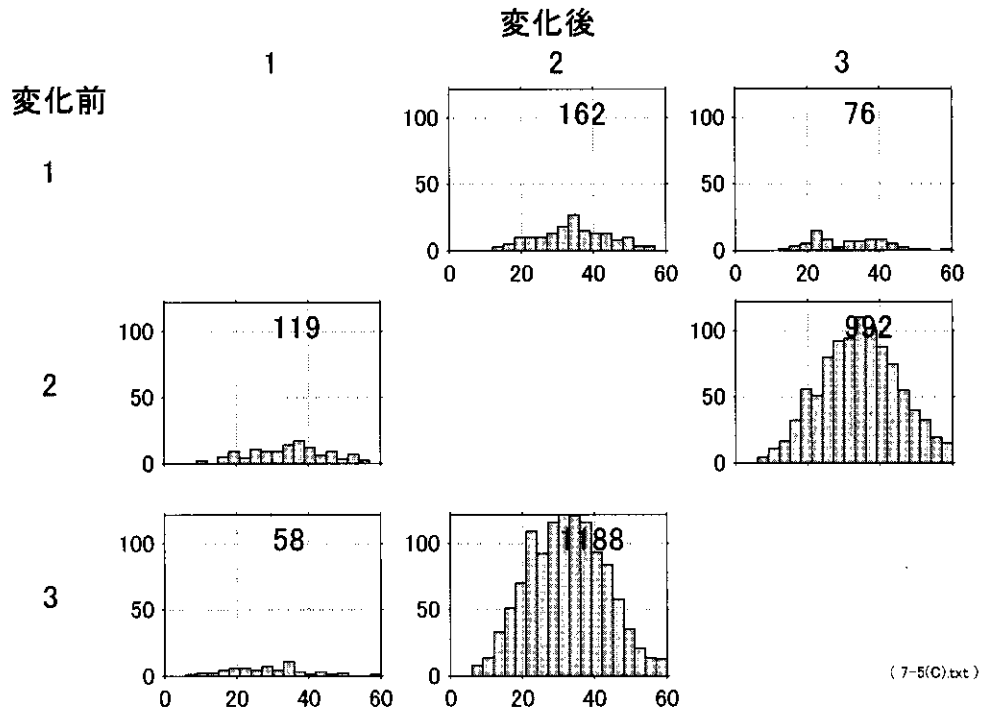


図 7-5(C) 衝動的・発作的行動：年齢（歳）

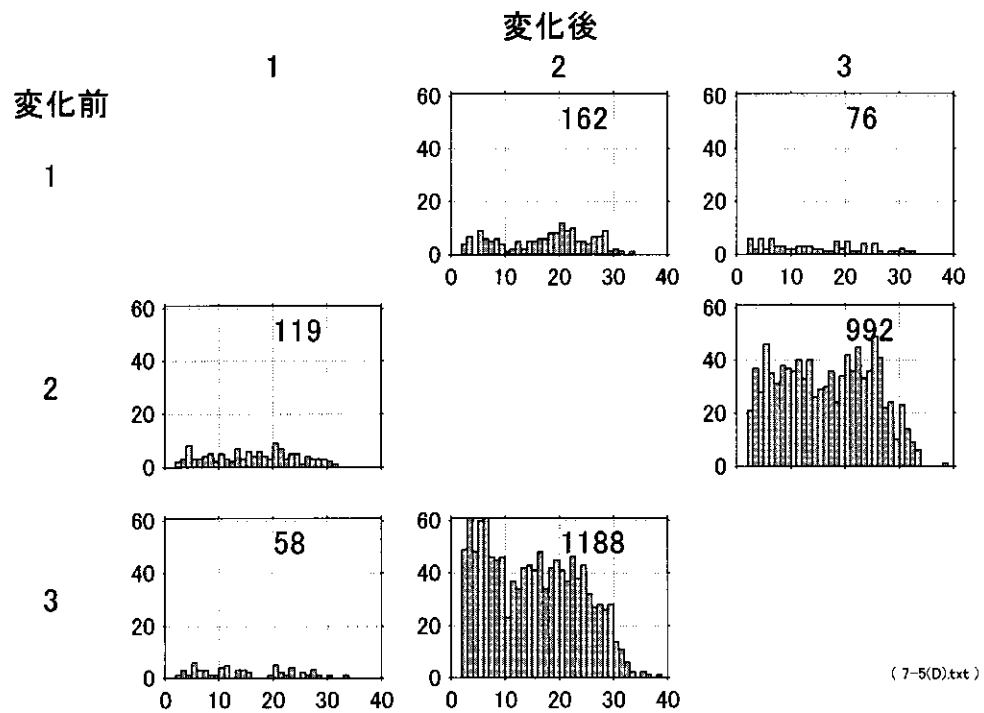


図 7-5(D) 衝動的・発作的行動：変化発生までの入所期間（年）

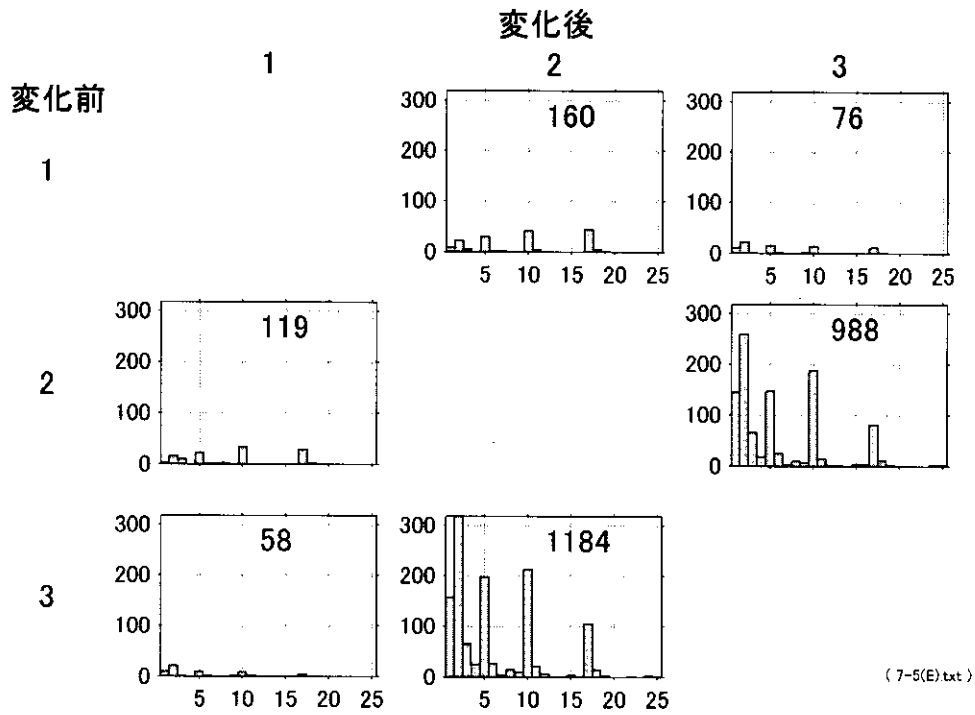


図 7-5(E) 衝動的・発作的行動：大島の分類

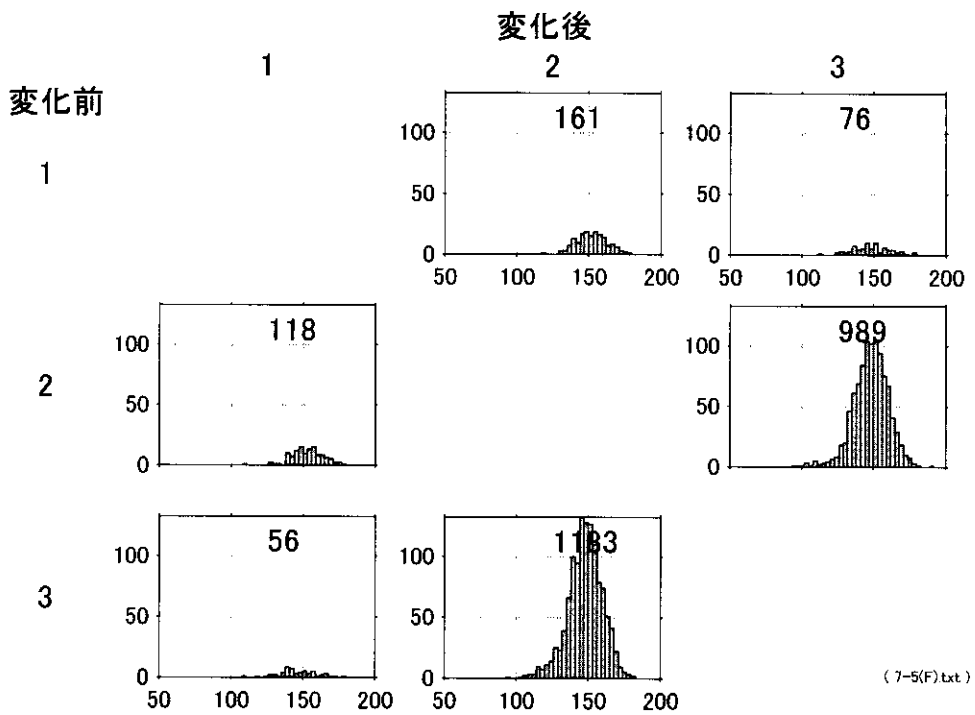


図 7-5(F) 衝動的・発作的行動：身長 (cm)

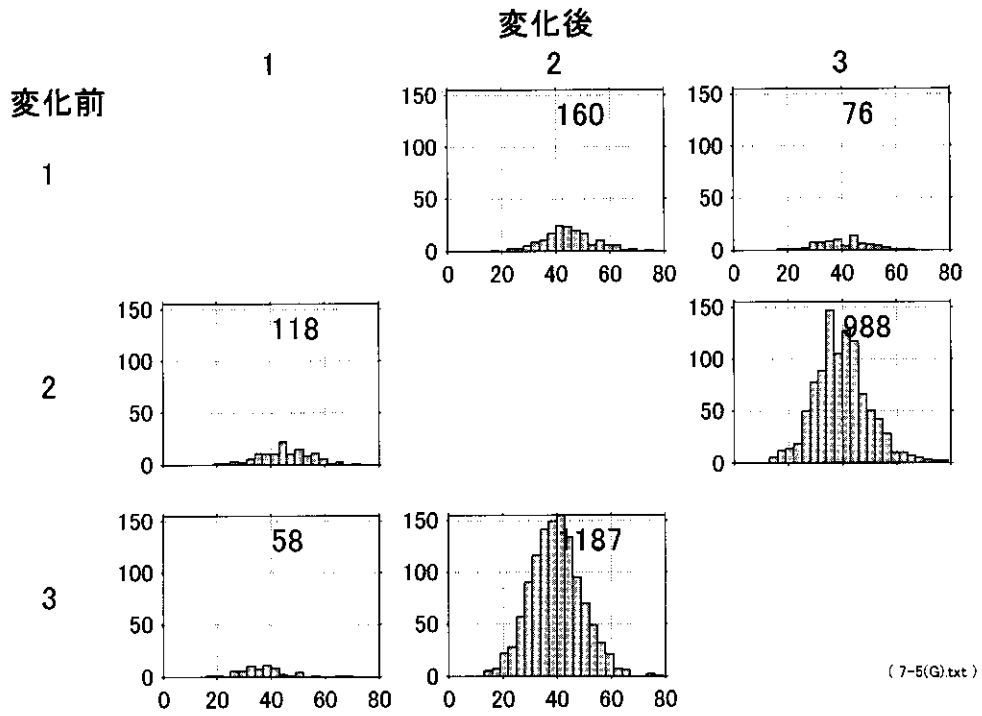


図 7 - 5(G) 衝動的・発作的行動：体重 (kg)

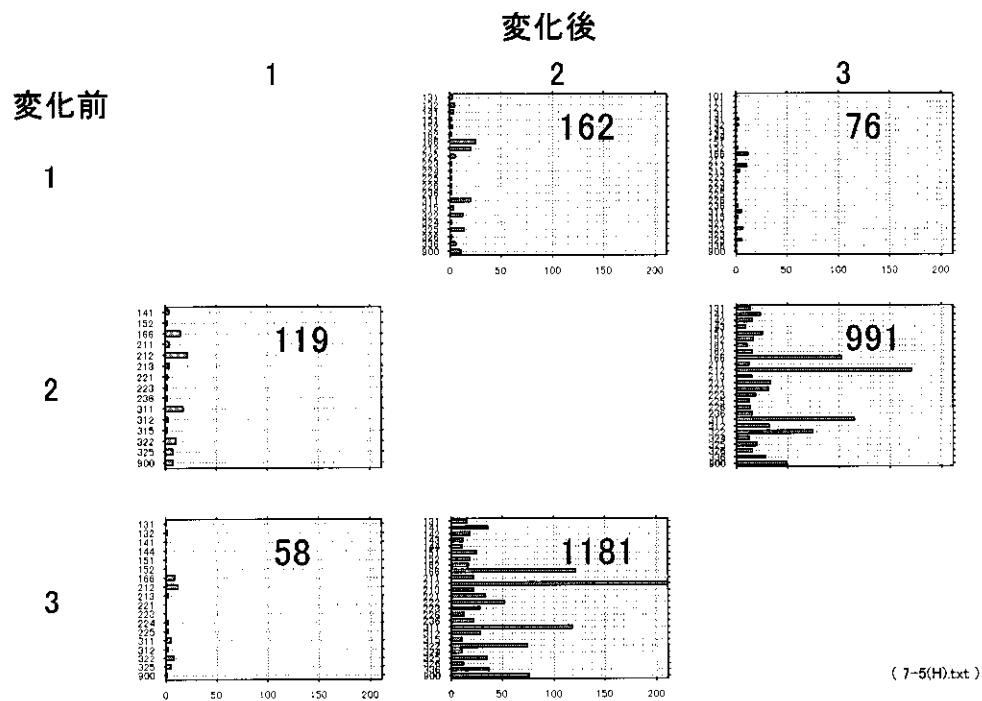


図 7 - 5(H) 衝動的・発作的行動：主要病因

## 7. 6. 他害

### ■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 7-6 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8584 名の中で不変群 6997 名を除いた，1587 名（18.5%）に変化がみられた。改善は 1108 回，退行は 1167 回発生し，改善は退行に比べて少なかった（改善/退行：-5.1%）。また，改善と退行の和（2275 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.43 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（881 回，改善回数の 79.5%）であった。一方，退行に関しては，3 群→2 群（1004 回，退行回数の 86.0%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1230 回みられ，改善が 613 回（49.8%），増悪 617 回（50.2%）であった。女性では何らかの変化が 1045 回みられ，改善が 495 回（47.4%），増悪 550 回（52.6%）であった。男性の方が若干改善率が高い傾向であった。

改善群と増悪群について大島の分類との関連をみると，大島の分類 2・5・10・17 に高い率を示していた。身長・体重との関連については両者間で顕著な差を認めていない。なお，体重は改善群，増悪群とも 40 kg 前後にピークがみられた。



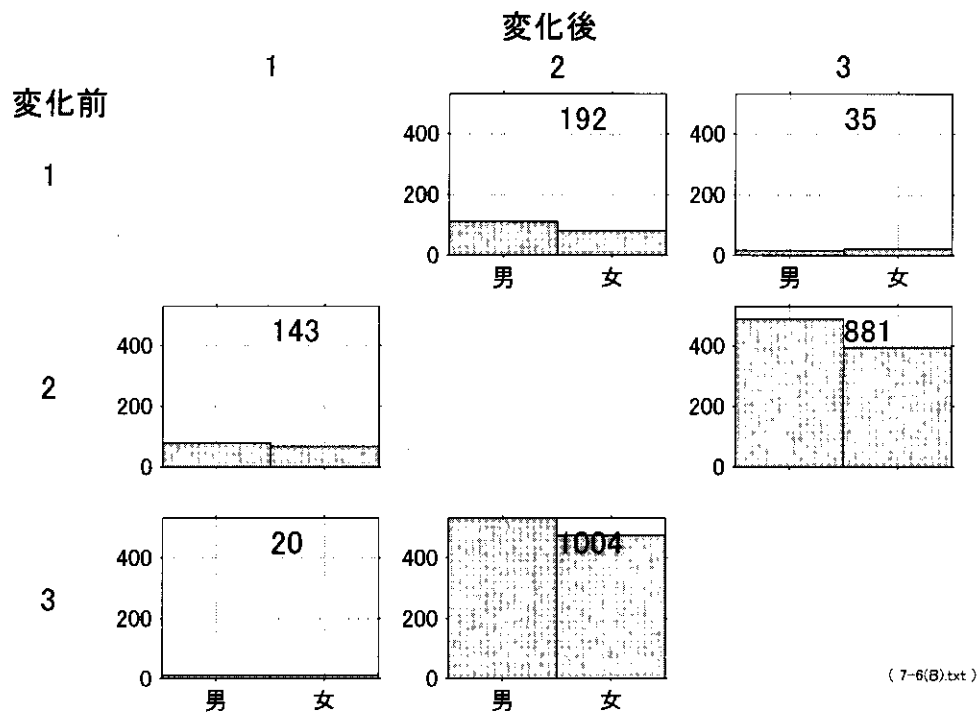
	変化後 1	2	3
変化前 1	39 名	192 回	35 回
2	143 回	562 名	881 回
3	20 回	1004 回	6396 名

対象症例数 = 8584 名  
 不変症例数 = 6997 名  
 変化症例数 = 1587 名

改善変化回数 = 1108 回  
 増悪変化回数 = 1167 回

(7-6(A).txt)

図 7-6(A) 他害：全体



(7-6(B).txt)

図 7-6(B) 他害：性別

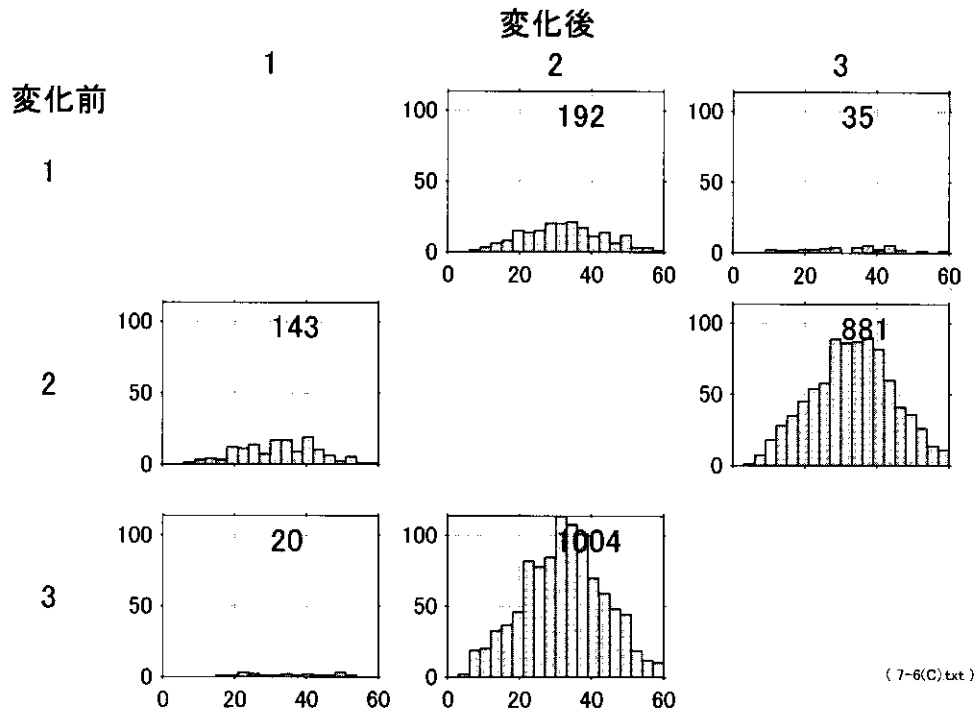


図 7 - 6(C) 他害：年齢（歳）

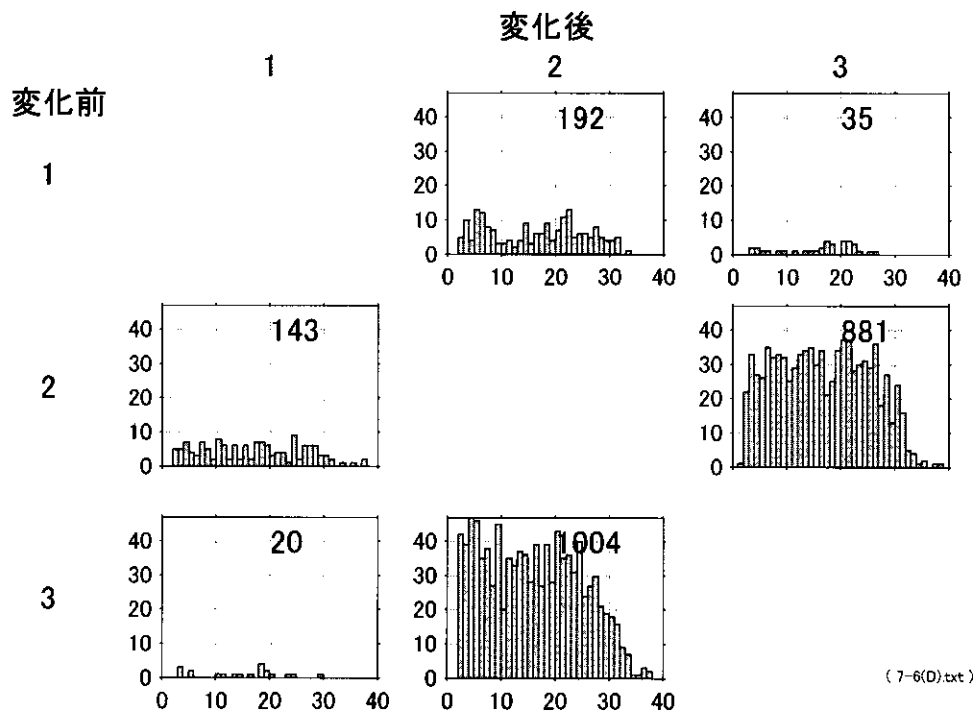


図 7 - 6(D) 他害：変化発生までの入所期間（年）

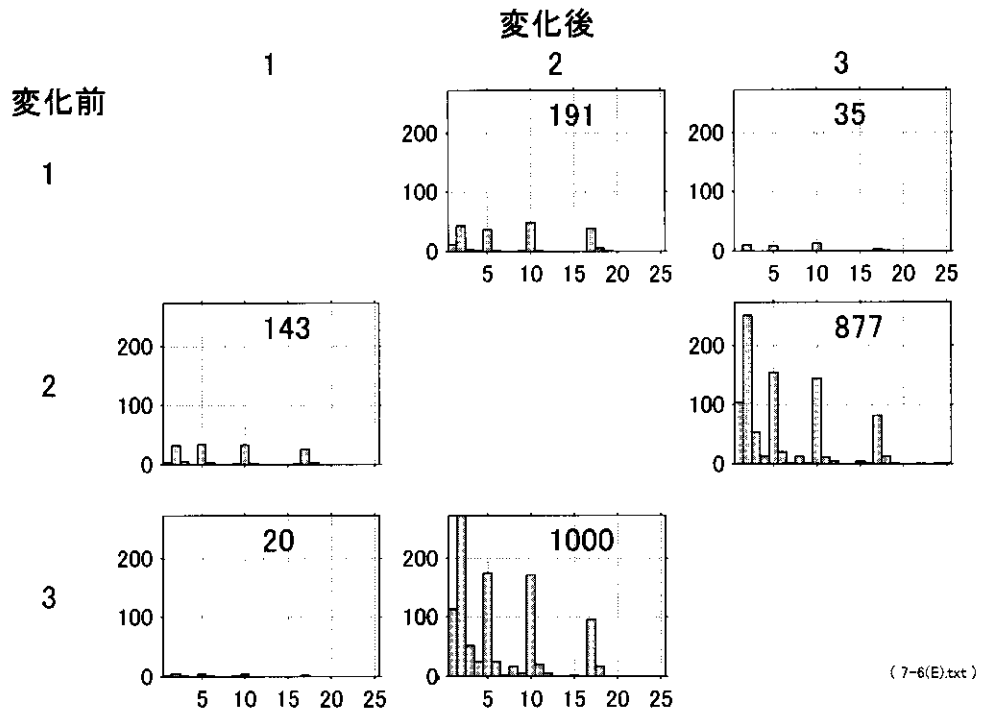


図 7 - 6(E) 他害 : 大島の分類

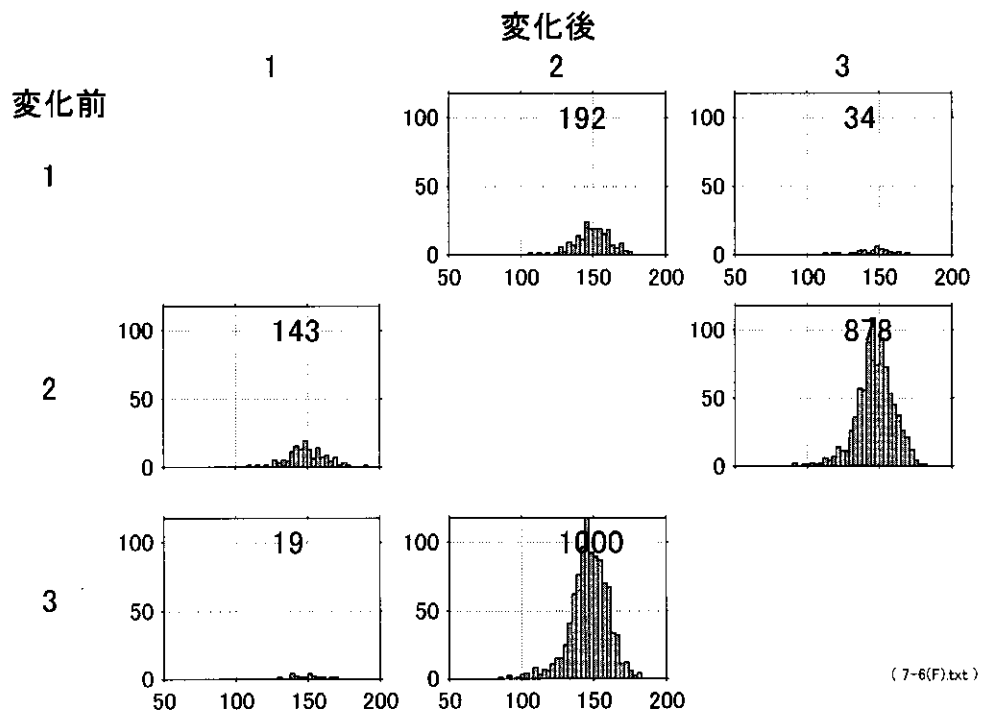


図 7 - 6(F) 他害 : 身長 (cm)

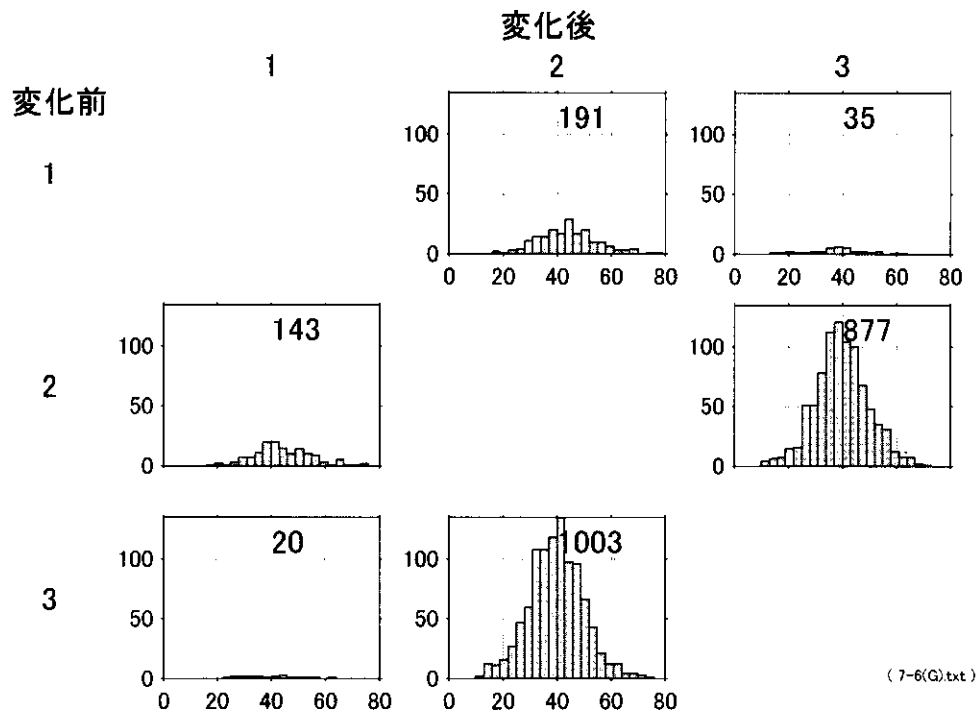


図 7-6(G) 他害：体重 (kg)

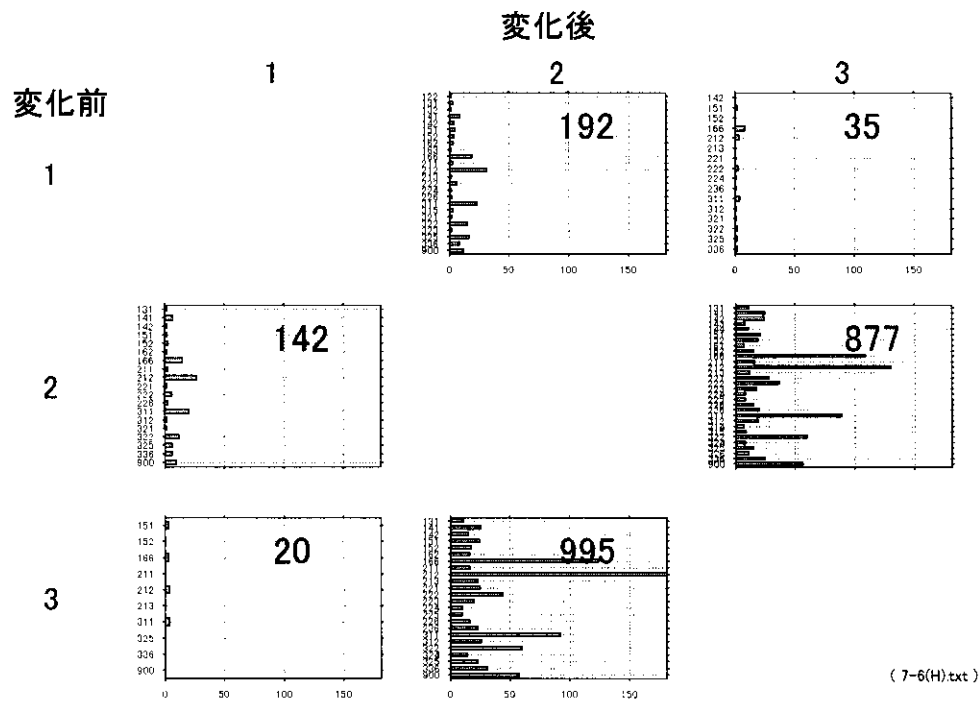


図 7-6(H) 他害：主要病因

## 7. 7. その他

### ■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 7-7 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8068 名の中で不変群 7450 名を除いた、618 名 (7.7%) に変化がみられた。改善は 498 回、退行は 373 回発生し、改善は退行に比べて多かった (改善/退行：33.5%)。また、改善と退行の和 (871 回) を変化を起こした症例数で除すると、変化が平均で 1.41 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は、2 群→3 群 (289 回、改善回数の 58.6%) であった。一方、退行に関しては、3 群→2 群 (223 回、退行回数の 59.8%) の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 471 回みられ、改善が 273 回 (58.0%)、増悪 198 回 (42.0%) であった。女性では何らかの変化が 395 回みられ、改善が 220 回 (55.7%)、増悪 175 回 (44.3%) であった。男性の方が若干改善率が高い傾向であった。

改善群と増悪群が大島の分類 2・5・10・17 に多い傾向が、ここでも認められた。

### ■まとめ

対人関連行動の項目毎に、対象症例数に対する変化症例数の割合を比べると、

3. 奇声・叫声 (37.2%)
2. 排他・拒絶的傾向 (31.9%)
1. 攻撃的・反抗的態度 (28.3%)
5. 衝動的・発作的行動 (21.9%)
6. 他害 (18.5%)
4. ひどいいたずら (14.3%)
7. その他 (7.7%)

の順であった。つまり、「奇声・叫声、排他・拒絶的傾向、攻撃的・反抗的態度

度」は成長・発達的一方では病状悪化や老化・退行の影響，さらに療育の効果が反映されやすいのに対し，「衝動的・発作的行動，他害，ひどいいたずら，その他」は，それらの影響や効果等を受けにくい傾向を示していると理解される。

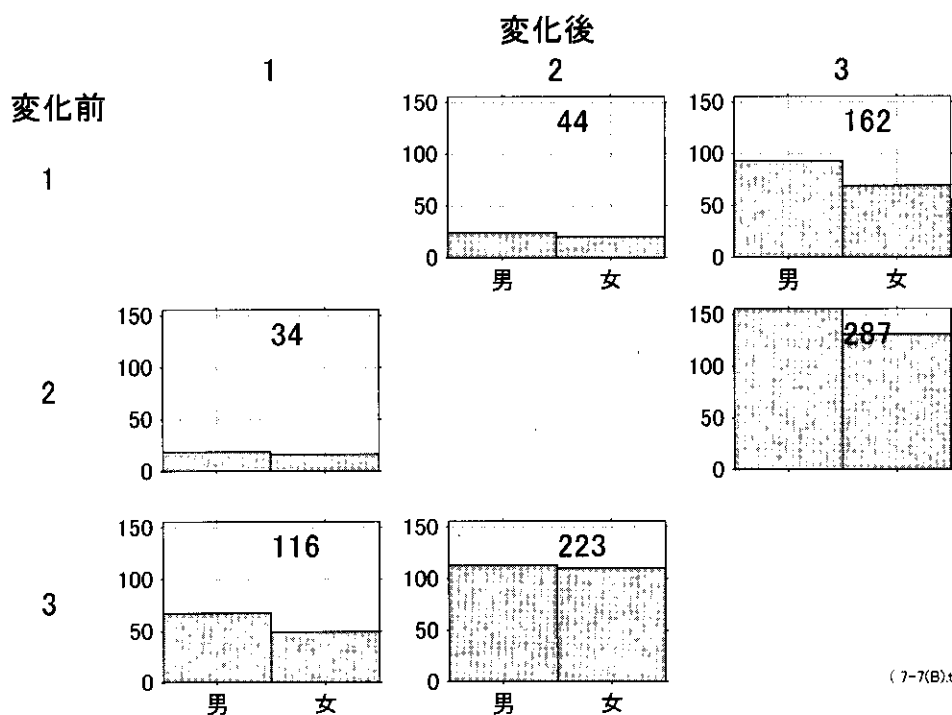
	変化後 1	2	3
変化前 1	19 名	44 回	162 回
2	34 回	23 名	287 回
3	116 回	223 回	7408 名

対象症例数 = 8068 名  
 不変症例数 = 7450 名  
 変化症例数 = 618 名

改善変化回数 = 493 回  
 増悪変化回数 = 373 回

(7-7(A).txt)

図 7-7(A) その他：全体



(7-7(B).txt)

図 7-7(B) その他：性別

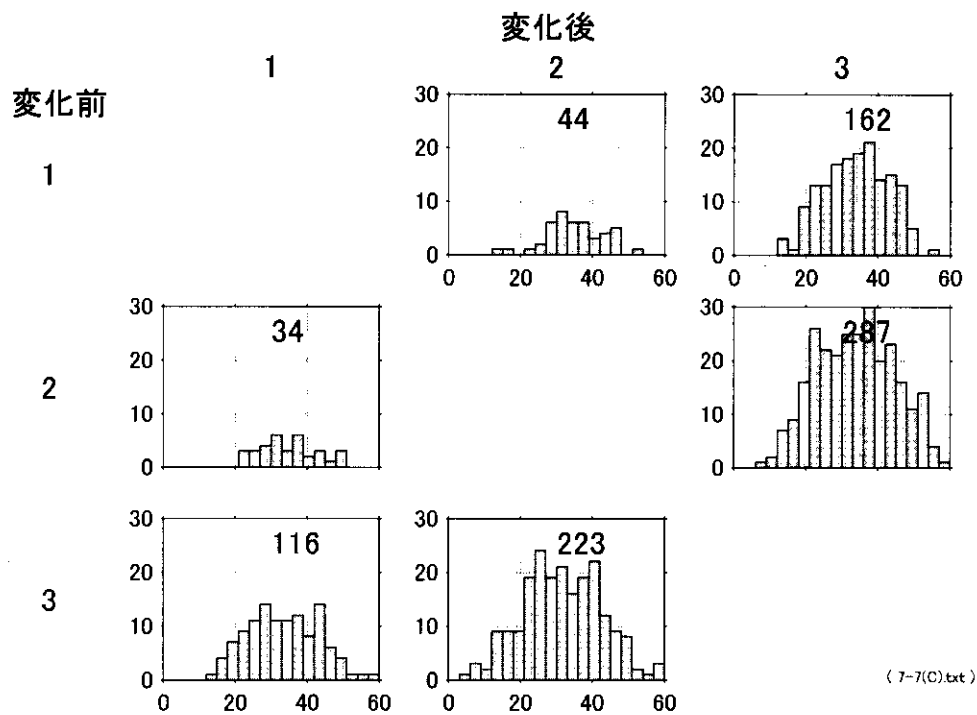


図 7-7(C) その他：年齢 (歳)

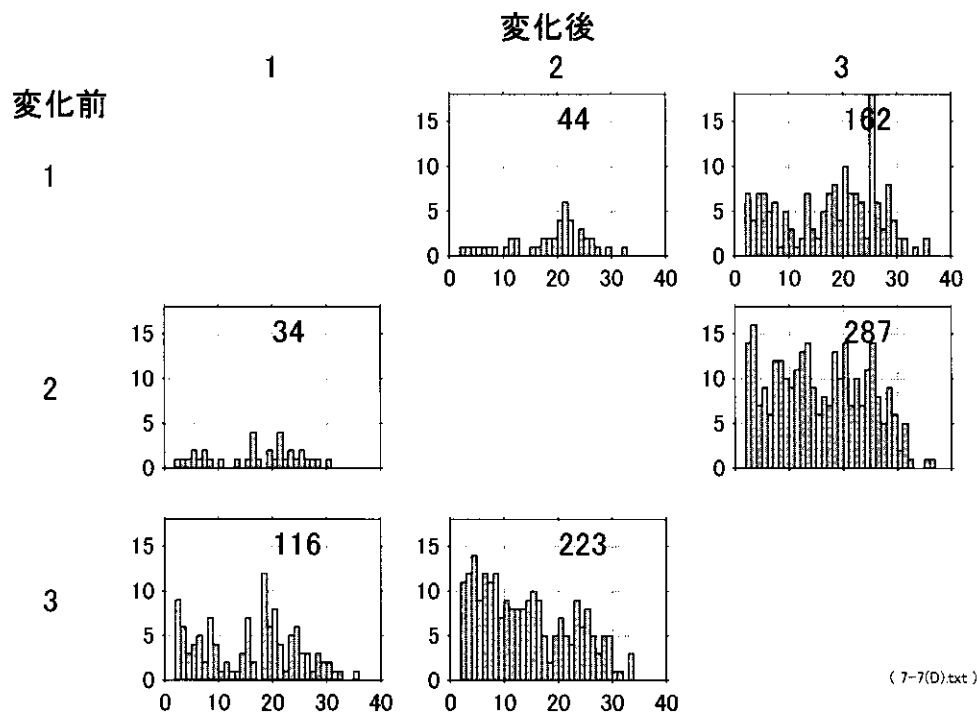


図 7-7(D) その他：変化発生までの入所期間 (年)



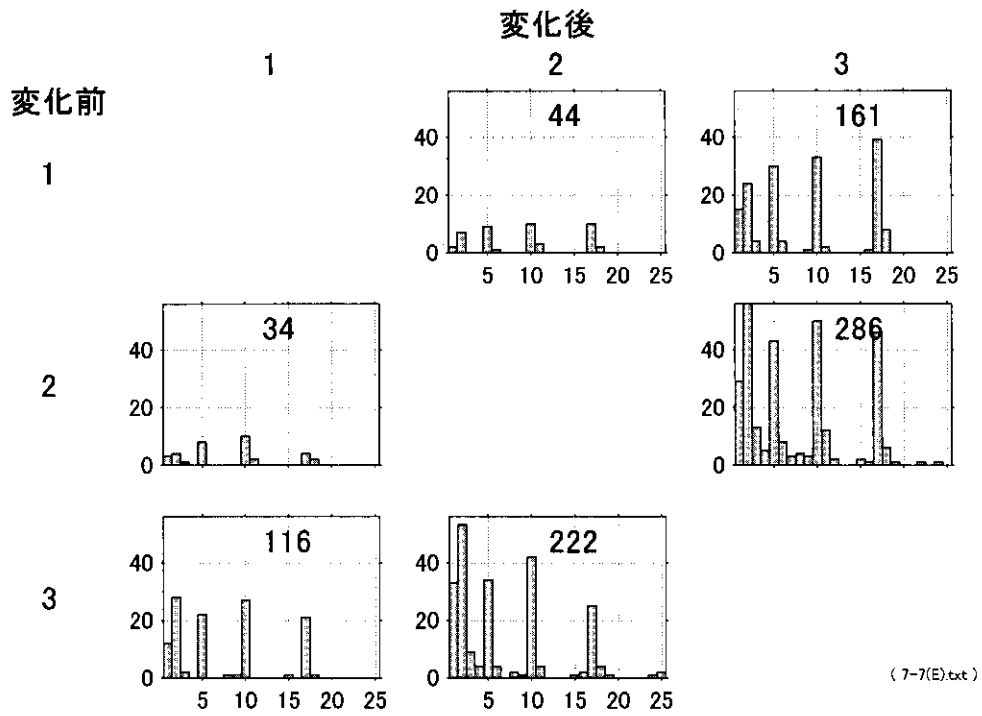


図 7-7(E) その他：大島の分類

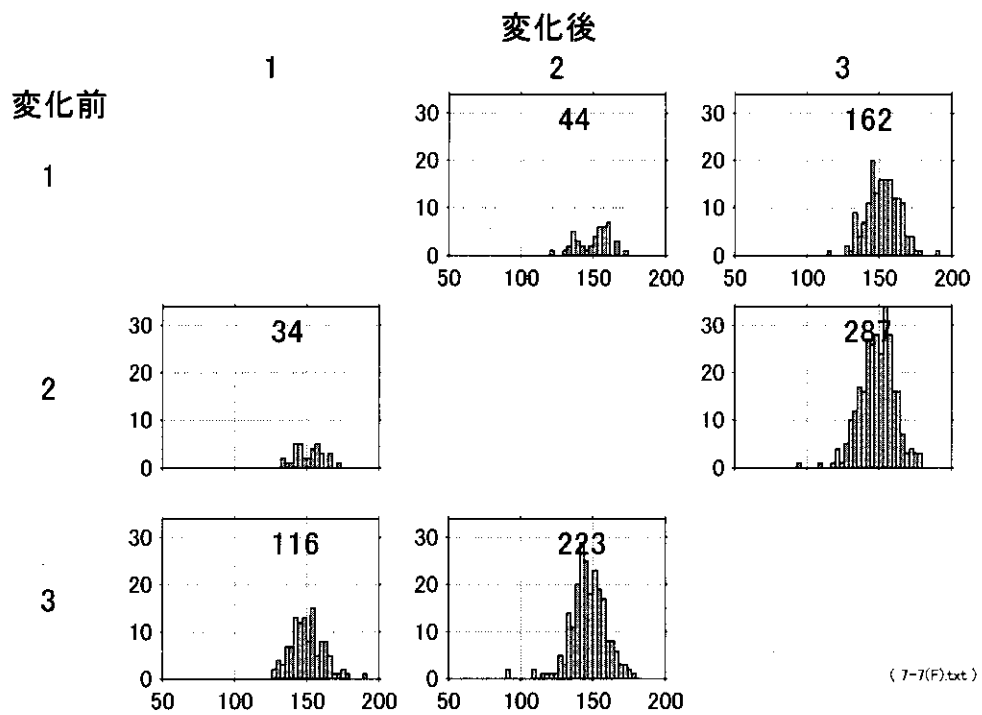


図 7-7(F) その他：身長 (cm)

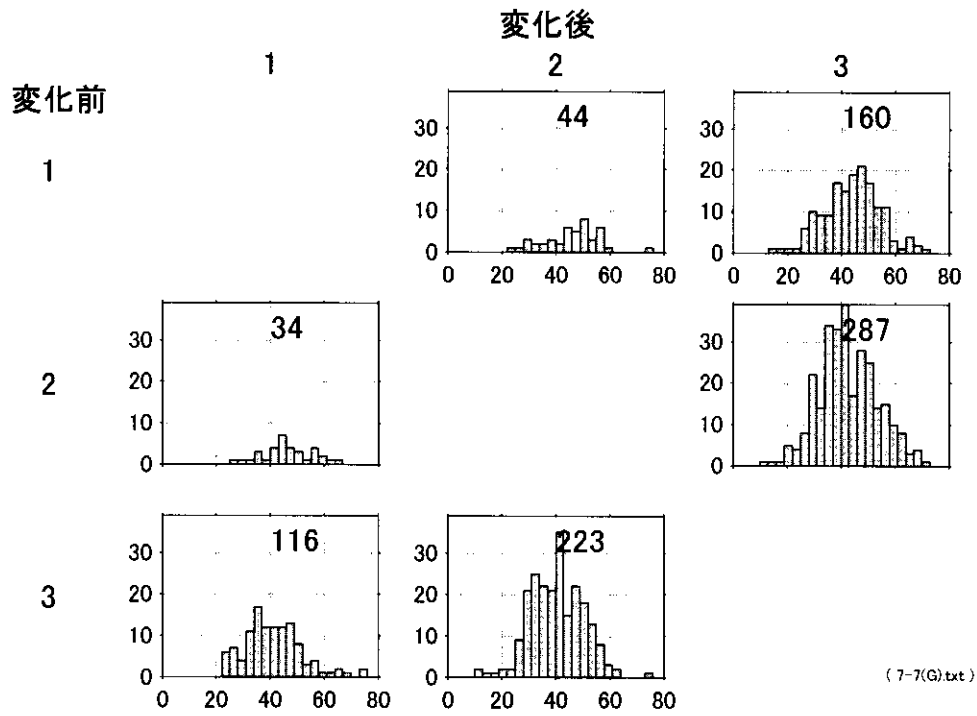


図7-7(G) その他：体重 (kg)

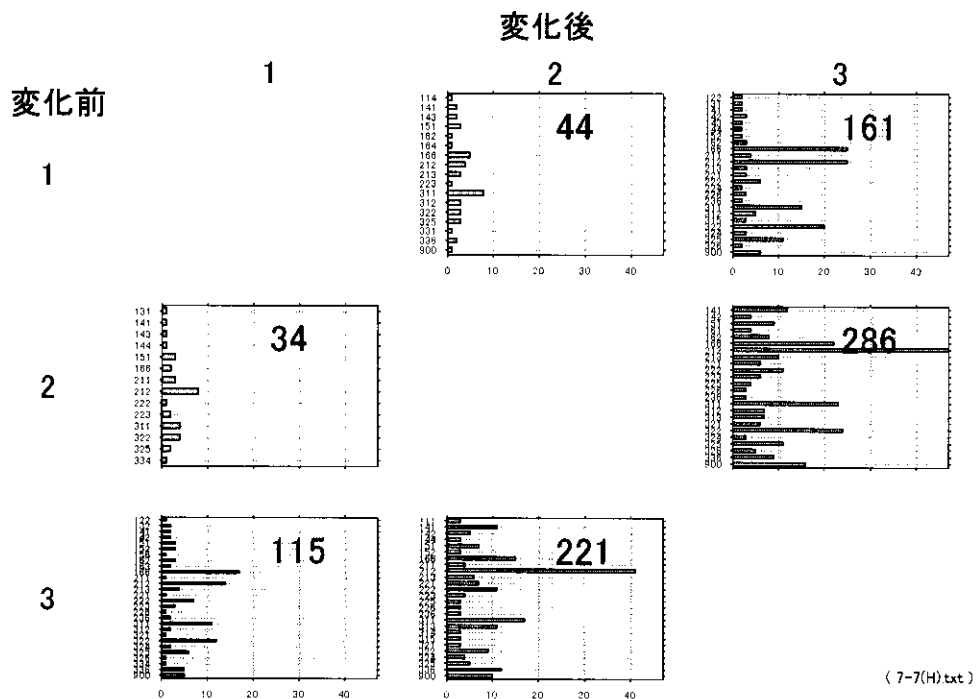


図7-7(H) その他：主要病因

## 8.. 日常生活動作（排泄）

### 8.1. 排尿（尿意の有無）

■改訂版■

1	無
2	有

<図 8-1 (A)～(H)>

全体：対象症例数 4670 の中で不変群 4406 名を除いた，264 名（5.7%）に変化がみられた。改善は 144 回，退行は 161 回発生し，改善は退行に比べて少なかった（改善/退行：-10.6%）。また，改善と退行の和（305 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.16 回発生したということになる。

性別：特に性差はみられなかった。

年齢：改善 2 群→1 群は 33～35 歳にピークがあり，退行 1 群→2 群は 39～41 歳がピークであった。改善群のピークに遅れて数年後に退行群のピークがあり，これは加齢により退行が進む傾向を示すと考えられた。

	変化後 1	2
変化前 1	1738 名	144 回
2	161 回	2668 名

対象症例数 = 4670 名  
 不変症例数 = 4406 名  
 変化症例数 = 264 名

改善変化回数 = 144 回  
 退行変化回数 = 161 回

(8-1(A).txt)

図 8-1(A) 排尿 (尿意の有無) : 全体

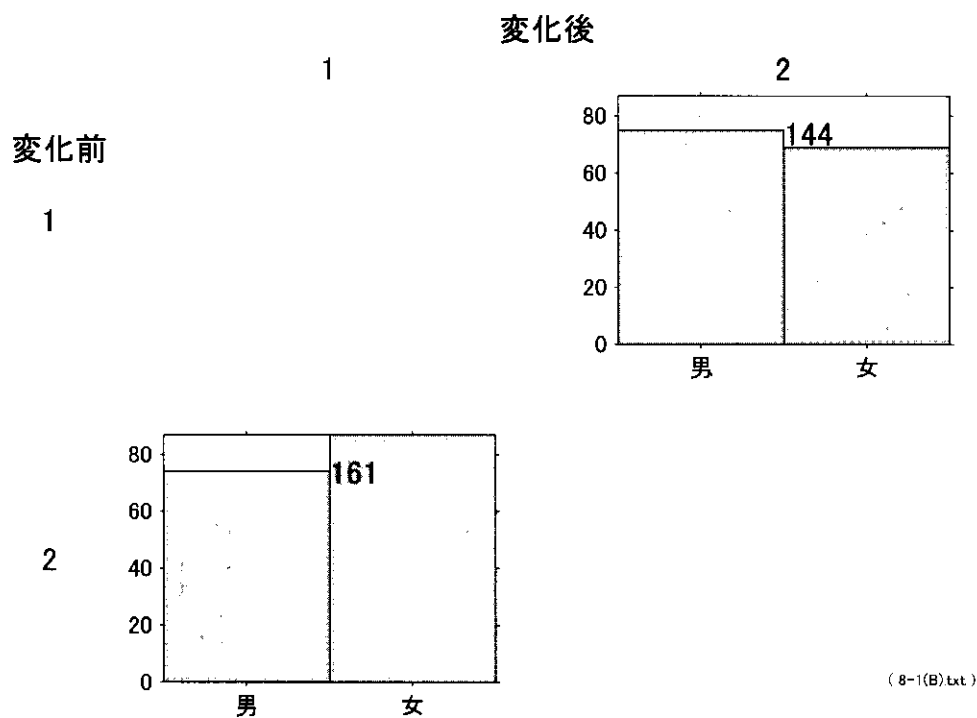


図 8-1(B) 排尿 (尿意の有無) : 性別